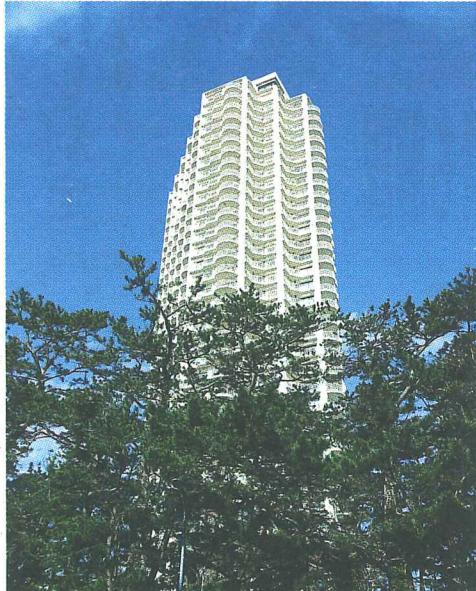


33階建てタワマンで排水管ライン

タイコー 鴨川グランドタワー<sup>(築28年)
223戸)</sup>でCSC工法施工



コンドミニアムホテルも併設されてい
る鴨川グランドタワー



大型吸引車3台が稼働



15階で配管を切り分けて施工



特殊な研磨治具でさび、汚れ除去

そして工事に伴う土砂の負担の軽減につながる、として今や排水管改修の主流工法となりつつある。

排水管の劣化対策として、管内のさびを除去して、管内を塗装する。ライニング工事は更新工事と比較して工期・工費などの大幅削減、そして工事に伴う住民負担の軽減につながる、として今や排水管改修の主流工法となりつつある。

そのライニング工法の中でタイコーの工法

「サイクロンスープ」排水管高圧洗浄作業をコート工法（CSC工法）」は、管内に塗布する塗料に独自開発の「抗菌塗料」を使用することによって、管内を衛生的に長期間にわたって維持させ、年に一度の定期検査で、一般財団法人建築保全センターの保全技術審査証明を取得している。

工法の心臓部とも言

銀イオンの抗菌効果で雑菌の繁殖を長期に抑制

抑制

居住者の生活やホテル営業面を考慮して、15階で配管を切り分けて施工を行った。

33階建てタワー・マンションの排水管ブイニング工事が昨年12月上旬に完了した。千葉県鴨川市の鴨川グランダタワー（築28年、223戸）だ。分譲住戸に加えて、リゾート地域ならではのコンドミニアムホテルが併設された南房総唯一のタワー・マンションである。ライニング工事を担当したのはタイコー（本社千葉県船橋市、米村直樹社長）。高さ100㍍を超える超高層ゆえの施工の難しさをどう乗り越えたのか、ライニング工事の詳細を含めて取材した。

える〔抗菌塗料〕は耐久性・耐熱性に優れた抗菌性エポキシ樹脂で、第三者機関（抗菌製品技術協議会）による厳正な審査基準を得て、優れた抗菌性能を有する。このため、数種類の試験で、配管を組んで、汚れ付着具合の比較試験を実施している（右下写真）。

下の写真は同工法によるライニング施工工程で、年経過したあるマニホールドの排水管内部(左)と、その状況がうかがえる鏡写真だ。さびやかな付着がなく、衛生的な管内が維持される。

それ衛やのン後に

後6年経過した管内状況

A photograph showing a dark doorway or entrance area, possibly leading to a basement or a storage room. The door is slightly open, revealing a dark interior.

「抗菌塗料」による「コーティング」で衛生的な管内を維持

年一度の排水管高圧洗浄作業を10年間不要に

